平和守るため決起

玉名に市民会議が誕生

お隣りの玉名市に、「戦争に反対し平和を守る市民連絡会議」が誕生した。同市の市議会のなかの自民党勢力が、憲法違反の「機密保護法」の制定を求める請願を押し出してきたことが契機となったもの。

右の市民連絡会議が誕生したのは九月十八日。玉名教育会館に約百五十人が集まって総会を開いて結成。参加団体は、社共両党に熊本県教組、玉名地区労。

現在、全国各地の自治体の間から政府・自民党の中央の動きに呼応して、この種の動きがきわだって出てきている。「スパイ防止」「有事立法」「靖国神社の国家神道化」など、明らかに反動と天皇制支配の再現をねらってのことで、それでなくてさえ、わが国が戦争の危険な道を今一度歩みはじめようとしているときだけに、これらの恐しい意図は打ち砕かなければならない。

誕生した「戦争に反対し平和を守る市民連絡会議」の今後を、大きく期待しよう。

玉名駅近くで見出された玉名市民連の反戦アピール。

中央委が石炭政策めぐる討論

海外炭志向は疑問

政策闘争はもっと大規模に

今政府の機関で、第七次石炭政策の樹立をめざす審議がすすんでいるが、このこともあってか、炭鉱労働者の間に、同問題に対する関心がこれまでになく強まっている。このたびの、炭労大会議案（なかでも政策闘争の項）についての討議の真剣さが、そのよい例だろう。

討議のなかでも、九月十七日に開かれた中央委員会が象徴的で、列席していた炭労の古賀徳継次長も交えての質疑応答は、石炭政策・政策闘争のもつべき今後の方向をうかがわせる重大な内容を含んでいた。それは今後の闘いと論議を重ねることによって、さらに深く追及され、「これだ」という方向性が確立されなければならないが、参考のためにその討論の要旨を紹介しておく。

×

杉本一男委員　私企業では炭鉱経営に将来性がない、といわれるなかで、三井は黒字でありながら国からどしどし政策費を取り、中心的な志向を海外炭の開発に向けている。現在、鉱が生きているのに海外炭ばかり志向するとは蛇道であろう。

その道は、いうまでもなく石油の二の舞いにつながっている。決して、よいことばかりではない。それに、あまりな海外志向は軍事的にも問題がある。

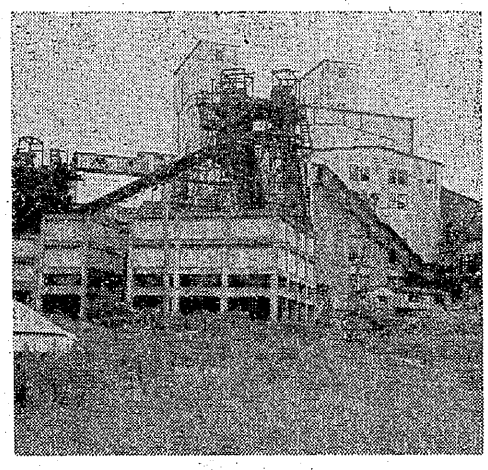
このような重大な内容をもつ政策闘争をやるというのに、炭鉱労働者をたった十二名程度上京させるのではダメだ。もっと大胆に、総評を中心とした闘いに発展させるべきで、そのためにも今の指導幹部の姿勢も変えなければならない。

古賀次長（炭労）　海外炭といっても、ほとんどメジャーが占めてしまっていて、たとえそこへいったとしてもたいしたことはのぞまれぬ。

今、国内炭の生産目標は年に二千万トンだが、実績は千八百万トンにも達しない。需要者側は、もっと掘ってほしいといっている。足りない分がどうしても海外炭となるのだが、その輸入は国の事業として行なうべきで、そのためにも石炭の生産・販売・輸入を統轄する公社をどうしても闘い取らなければならない。

今総評にはまだ、海外炭の問題に対する認識はともかく、日本のエネルギー政策についての方針がない。

それに総評は今資本の攻撃をまともに受けているあまり、運動の基本を職場におくことを忘れている。だが、政策闘争は院内とともに総評規模の闘いが必要だ。そのためにも今の指導幹部の姿勢も変えなければならない。



筑豊で、石炭産出量をほこつた貝島大之浦炭坑の竪坑跡。今は廃墟となり、無残な姿をとどめている。

三池闘争思い浮かべ

記念の集会

関東不知火会が

みいけ関東不知火会（代表者＝相浦和弘さん）は、かねての計画にもとづき、九月二十八日東京地評会館で〝三池闘争二十周年記念集会〟を開いた。盛大だったが、次号で詳しくお伝えする。

三池闘争二十周年記念集会への案内状。

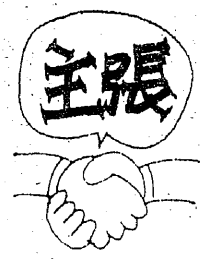
×

ごく要約でしかないが、今石炭政策・政策闘争のあるべき方向が展望できるまでにいたった感が深く、討論の今後の発展を大きく期待しよう。

実現のために努力したい。

金大中氏に対する死刑

判決を撤回せよ



朴なき朴体制

朴前大統領の射殺事件より、金大中氏死刑判決までおよそ一年、韓国の政治情勢はめまぐるしく変化している。

昨年十二月十二日、鄭昇和戒厳軍司令官を朴射殺事件容疑で逮捕し、その翌日、李熺性将軍を後任に任命した。つづいて十四日、申鉉碻内閣が発足し、今年二月二十九日、金大中氏ら民主化運動家たちの公民権を回復させ、昨年十二月二十日に就任した崔圭夏大統領体制による民主化日程を進めるような気配を示したのであった。

三月十三日にいたり、鄭昇和前戒厳軍司令官を軍法会議で有罪とし、四月一日、全斗煥は中央情報部長代理を兼任し、名実ともに軍の実権を掌握したのである。

五月一日、民主化を求めるデモ隊が街頭に繰り出し、五月十五日、韓国全土で十万人のデモンストレーションに波及、騒然たる情勢のなかで外遊中の崔大統領は急ぎ帰国するも対処の術なく、事態を見守るばかりであった。

同じころ、金大中氏と金泳三新民党総裁の申内閣退陣要求を頂点に、「維新体制」の破棄を求める民主化要求は、国民各階層をまきこんで韓国全土に広がっていったのである。

事態を憂慮した全斗煥は戒厳軍機動隊を梨花女子大に突入させ、学生指導者七名を連行、時を移さず戒厳令を全土に施行して金大中氏を逮捕したのである。五月二十日に申内閣総辞職。後金載圭らの上告を棄却し、死刑が確定。約一カ月後に死刑執行したのであった。

その後光州市騒乱、武装蜂起、戒厳軍と武装市民との衝突、軍の制圧で光州市民二千四百人の死傷者を出したのである。

全斗煥は中将、大将へ昇進、自ら大統領に就任し、光州騒乱と民主化要求の責任を金大中氏に転嫁し、九月十七日死刑の判決を下したのである。

フアシズムをゆるすな

韓国はわが国と同様、一九六〇年以降高度成長をなし遂げ、そしていま高度成長は破たんし救い難いまでに深刻な不況に落ち込んでいる。とりわけ一九七八年以降、急激な生産の落ち込みと、消費者物価、なかでも卸売物価は急騰し、失業者は月ごとに増大している。

労働者の賃金は、その七一％が平均賃金以下（平均賃金＝七万八百五十ウオン。一ウオンは、〇・四三銭。いずれも一九七九年）の生活を強いられており、労働者はいま五〇％～七〇％の賃金要求をしている。

いま韓国では、高度成長の「カゲ」に「貧困の蓄積」がますます深まっており、経済的に行きづまっている。

アメリカと日本の独占資本は、金大中氏死刑判決に対して「内政干渉」を口実に何ら具体的行動をとらず、明らかに全斗煥体制を許容している。

金大中事件は、フアシズムと民主主義とのたたかいである。われわれは金大中氏死刑判決に抗議し、その撤回を強く求めるものである。

豆情報

金大中氏に死刑判決。「邪魔者は殺せ」のフアシズムを許すな。広げよう抗議の声を。

×　×　×

B52火災、ICBMサイロ爆発など核兵器の事故相次ぐ。事故根絶には核兵器廃絶しかない。

×　×　×

富士見病院の手口は「医は算術のための処術」。そこから大金もらう厚相。医の荒廃の極。

なかま

十九分会（三川）

野口マス子さん

特務工の野田マス子さん（46歳）。病気だった父親とかわり、昭和三十三年十二月十三日に入替採用となって、三川鉱入社。

以来、繰込場など坑外のあらゆるところの清掃に汗を流し、働く者が働きやすい職場づくりに励んでおられます。暑い日も、雨風や雪の舞う日も……。

▼…これからは秋も深まり、落ち葉が舞いはじめます。清掃も大変な作業です。

その割に賃金は低く、月づき十万円あるか無きかという薄給。生活が苦しいことはいうまでもありません。

それでいて、食べものなども好き嫌いなく、ふくよかな人柄で、三川の野口さんで、趣味は大好きな旅行。年一回、仲間の皆さんと楽しむのが何よりとのこと。

▼…一日の作業終え、帰りに買いもの。休むひまもなく夕食の用意。テレビを見るとき、初めてゆっくりする気分になるとのことで、杉良太郎が大のファン。あの流し目が女心をうっとりさせるのだそうで、夢中の様子。

お母さんも元気で、大のプロレスファンだとか。あまり興奮して夢中になるので、ハラハラのし通しだとも。

親孝子者で、週に一回はお母さんと荒尾の塩湯へ。母親の健康を祈って、いつまでも長生きするようにと、欠かせぬ野口さんの思いやり。毎日毎日、大変おつかれさんです。

×

みいけ編集委員＝桃島敬三・記

この欄に、もうかなりの仲間の登場を見ましたが、みなさんのまわりに「ぜひとの仲間を……」という人があったら、本部の組織までご連絡ください。

住居は荒尾市原万田社宅45棟。家族に母親ユキノさん（72歳）、妹の千代子さん夫婦にその子どもが2人